

2020年度 第6回理事会 の開催に当たって(挨拶)

日本高齢協連合会 会長理事 高見 優

—協同総合研究所30周年記念集會に参加して—

高齢協連合会の20周年に向けて、私たちも協同・連帯して進もう

3月13日、一般社団法人協同総合研究所30周年記念集會が開催され参加しました。同研究所(協同総研)は、労協連が母体となり1985年から6年間の議論を経て、わが国における労働者協同組合運動に資するシンクタンクを目指して1991年3月23日に設立され、その後一貫して国内外の多くの実践や理論を紹介する書籍や報告書を発行し、また全国の研究者や運動仲間を繋ぐ役割を果たしてきました。そしていま、2030年ビジョンをまとめようとしています。

私も会員となり、高齢協の事業・運動・組織を運営するに際して、他の高齢協・労協などの経験事例や研究者の報告、海外の制度などから数多くの示唆を得て、実践に役立てることができる喜びを味わったものです。

協同総研の初代理事長である故黒川俊雄さんは、神奈川高齢協の理事長でした。黒川さんから、ささえあい生協新潟の設立間もない時期に、長野で開催されたブロック会議(合宿)にお誘いを受け参加したところ、長野高齢協の依田発夫さんらと一緒に温かい励ましのお言葉をかけられ、新潟における初期の困難な事業・組織の運営に勇気をもって携わることができました。連合会にはほかにも素晴らしい先輩たちがたくさんおられました。故菅野正純さん(初代専務理事)も片山信一さん(高齢協初代専務理事)と一緒に、何度も新潟に足を運んで様々なアドバイスをしてもらいました。

東京高齢協そして高齢協連合会の初代理事長の大内力さん、労協連の名誉理事永戸祐三さん(元高齢協連合会副会長)、その他多くの方々が高齢協連合会の設立に尽力されたから、新潟でも高齢協を設立することができたのです。そして、現在私は連合会の会長理事を務めさせていただいています。

高齢協連合会20周年を迎えて、新型コロナ感染拡大などにより事業運営が困難な状況にありますが、協同の力で道を切り拓こうとする現場があります。宮城高齢協から他団体に移管を余儀なくされた仲間が元気に活動している様子を、本理事会でもみることができるでしょう。高齢協運動は、現在の仲間だけでなく過去・現在そして未来の仲間とともに進めるべきだ、と考えます。私たちは地域で、そして全国で連帯して、福祉・生きがい・仕事おこしの高齢協運動を進めていきましょう。

本日の理事会そして明日の「リーダーセミナー」は、連合会の会員の事業・活動に資する企画を考え、曾我専務理事ほか常任理事・本部事務局などみんなで協力しながら準備して来ました。

理事会と2021通常総会の議案審議、そして明日のセミナーは、兵庫高齢協の阿江理事長ほか皆さんのお力を借りて進め、実りの多い取り組みになるよう期待しています。